令和６年度　ふるさと教育推進事業

（様式３）【学校用】

ふるさと教育　取組事例

学校名	吉賀町立朝倉小学校		
学　年	主な教科等	主に関わる単元名	活用した教育資源 （ひと・もの・こと）
３・４	総合的な学習の時間	「地いきの人と交流しよう」	【ひと】朝倉公民館、朝倉農産、グループホームあさくら、宗正建設、地域講師多数 【もの】高津川、吉賀町ミニトマト、 【こと】公民館サロン参加、ＩＣＴ・重機体験
ねらい	地域の人と交流することを通して、地域への愛着を高め、自分にできることを考える。		

１　取組の概要

○朝倉公民館サロンへの参加、参加者や館長さんへのインタビューを通して、地域の方の思いや願いに迫った。
○「グループホームあさくらにっこり作戦」を計画し、実行することで、地域の人のために自分達にできることを考えた。
○宗正建設の見学の中で、先進的なICT活用を学んだり、重機体験をしたりすることを通して、吉賀町の未来のために自分達にできることを考えた。
○鮎の放流やガサガサ、朝倉農産見学、餅つき体験を通して、自分と地域の繋がりに気づき、地域の魅力を再発見した。
○学習したことを新聞やポスターにまとめ、それらをもとに作成したＣＭを学校行事「ワイワイ祭り」で、地域の人に伝えた。

２　ふるさとの「ひと・もの・こと」をどのような力を付けるために、どのような意図をもって活用したか。

（ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から）

・児童の思いや探究が学習を重ねるごとに深まるように、「ひと・もの・こと」と出会う順や内容、出会い方を児童の探究課題に寄り添い、意図的に設定した。
　①町探検を経て、「もっと知りたい。」と児童から意見の出た公民館サロンに参加し、地域の方の思いを知る。
　②地域の方の「地域のために何かできることをしたい。」という思いを受け、グループホームあさくらの高齢者のために、自分達にできることを考え実行する。
　③今の自分達にできることから思いを深め、地域のために先進的な取り組みをしている企業（宗正建設）を見学することを通して、さらに先の未来を想像し、吉賀町の未来のためにできることを考える。
・学んだことを分かりやすく伝える力をつけるために、CMを制作し、ワイワイ祭りで地域の人に伝える活動を行った。

（学力育成の視点から）

・「課題設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」の一連の学習活動をスパイラル化させるために、要所で実際の「ひと・もの・こと」に関わらせ、相手意識をもって伝えられる場を設定した。
・相手意識をさらに高め、情報を取捨選択する力を身に付けるために、ワイワイ祭りのCM作りでは、ピラミッドチャート等の思考ツールを用いて、ＣＭに使う事柄や言葉を吟味できるようにした。

３　児童・生徒に見られた変容（どのような力が身に付いたか等）

（ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から）

・実際に交流したり体験したりすることで、「宗正建設ではＩＣＴも活用していたなんて知らなかった。」「公民館サロンだけではなくて、今度は金曜朝市で買い物もしてみたいな。」など、地域の魅力を再発見する姿が見られた。
・「グループホームあさくらにっこり作戦」では、自分達のしたことに対し、高齢者の方からお礼の言葉をいただいたことで、より貢献意欲が高まった。
・宗正建設の取り組みを知ることで、自分達の身近にあるＩＣＴ活用の可能性や企業の地域への思いを実感していた。
・CMづくりでは、劇風にする、動画を入れたスライドを作る、歌を作るなど、伝えたいことに合わせてグループで形式を選び、必要な言葉を話し合いながら活動する姿が見られた。

（学力育成の視点から）

・まとめ・表現の場面でICTを活用し、伝えたい言葉や事柄を吟味してまとめる姿が見られた。
・国語科とも関連づけ、発表スキルを高めたことで、多くの人の前で堂々と発表できるようになった。

４　課題や今後の展望

子ども達の「関わってみたい！」「もっと知りたい！」という思いを大切にしながらも、コロナ禍を経て関わりが希薄になっていたり、異動して土地勘がない教員もいたりと、それを叶える「ひと・もの・こと」と繋がることに苦労した。その際、社会教育主事や公民館主事と連携を図ることで、繋がりを増やすことができた。今後も、連携を図るとともに、今年度校内で作成した「ふるさと教育資源（Ｂ年度版）」を活用してさらに繋がりを増やしていきたいと考える。

※取組の様子がわかるような画像(1 枚が 500kb 以下)を数枚貼り付けてください。
※この事例をしまねのふるさと教育ホームページに掲載する予定のため、画像は必ず承諾を得たものにしてください。